

目的 複雑な曲面の集合体である人体に平面布帛を適合させるためには、布帛自体の曲面化を行い、さらにいせ、伸ばし、ダーツ、切替線、タック等の成形特性を考慮に入れ、装飾性も兼ね備えた構成技法による曲面化が必要となってくる。その方法としては接着や縫製等が考えられるが、本報においては特にミシン縫製をとりあげ、平面布帛の変形に及ぼす影響について検討を試みた。

方法 前報^{*}においては、試料の布目方向は一定とし、縫目の角度や密度、あるいは試料の縫製方法を変化させて、せん断変形の仕事量や荷重等について検討を行った。本報においては、縫目方向は試験機のつかみと同一方向とし、2枚の試料の布目方向あるいは縫製方法を変化させ、条件による違いを2・3の試料を用い比較を行った。

結果 試料の布目方向により変形の際の荷重や仕事量等が異なり、また2枚の試料の縫い合せによって一枚布帛の場合の特性が減少するなど、試料を縫製する事により、さらに縫製方法を変化させることによって特徴ある結果が得られた。

*小野・三田村・綾田、織物昭和57研究発表会